

## 「第 15 回北東アジア OSS 推進フォーラム」を開催

日本 OSS 推進フォーラム(理事長:富士通株式会社 吉田 正敏)は、「第 15 回北東アジア OSS 推進フォーラム」を、2016 年 11 月 16 日(水) にヘビチホテル(韓国済州特別自治道)において開催しました。日本・中国・韓国の産業界、政府関係者、研究機関、大学等より約 100 名の参加がありました。次回フォーラムは、2016 年に韓国で開催することが合意されました。

北東アジア OSS 推進フォーラムは、2004 年以来、日本 OSS 推進フォーラム、中国 OSS 推進連盟及び韓国 OSS 推進フォーラムが協調し、各国における OSS の普及・発展に向けた活動を行っています。各国の産官学関係者からの講演、ワーキンググループ(WG)<sup>1</sup>の活動報告、各国で選ばれた OSS 貢献者の共同表彰等が行われました。



今回の会合では、日中韓のフォーラム参加者が、各 WG から報告された成果と今後の計画に関する議論に基づき、次の合意を得ました。

- 今後の WG 発足のメカニズムをより柔軟かつ高効率にし、2ヶ国の参加でも発足可能とし、残りの国と情報と成果を共有できる様にした。
- 本フォーラムの活動内容をどの様にしていくか、継続して検討して行く。
- 第 16 回北東アジア OSS 推進フォーラムは、2017 年に中国で開催する。

4 つの WG から報告された主な活動成果と今後の計画は、以下のとおりです。

### I. WG1: 技術開発・評価

- クラウドベースのアプリケーションをテストし実践を積むための OpenStack ベースのインタークラウドプラットフォームを構築した。
- 情報を交換し、協カプロジェクトの機会を増やすために、OSS プロジェクトのウェブサイトを設定した。

<sup>1</sup> 北東アジア OSS 推進フォーラムには、①「WG1: 技術開発・評価」②「WG2: 人材育成」、③「WG3: 標準化・認証研究」、④「WG4: 適用推進」の 4 つのワーキンググループ (WG) が設置され、各 WG において専門的な議論が行われています。

- クラウド、OpenStack 内のネットワーク、モバイルインターネット、IoT、ビッグデータ、スマートシティの分野での研究協力の可能性を探求する。

## **II. WG2:人材育成**

- 「学生、エンジニア、マネージャー向けのスキルとサンプルカリキュラムの定義」という草案を見直し更新し、IT/OSS コンプライアンス教育、クラウドコンピューティング、IoT の様な最近の動向などのコンテンツを追加する。
- OSS の人材開発を推進するために、第 11 回日中韓 OSS 優秀技術賞と第 9 回日中韓 OSS 特別貢献者賞を授与した。
- OSS のトレーニングキャンプは、学生やエンジニアを含むオープンソースソフトウェア愛好家を集めて開催した。

## **III. WG3:標準化・認証研究**

- 法律およびセキュリティチームによって認識されている潜在的なリスクのための「サプライチェーンリスク管理(SCRM)標準ガイドライン」を作成した。
- オープンソースソフトウェアの成熟度調査として、機械学習などの AI を含むビッグデータに関連する47個の OSS を追加した。
- 「作成したリスク管理ガイドの適用」、「オープンな R&D プロジェクトの評価モデル」、「スマートターミナルの標準化」などをテーマに研究を進めていく。

## **IV. WG4:適用推進**

- 洛陽観光情報システムのために技術支援により、本システムの調査研究は完了した。
- 観光・農業・大学事務などの技術支援について、様々な企業との間で合意し関係を結んだ。また WG4 には新たに11社が参加した。
- 現活動を継続し、社会福祉の充実などで様々な企業間の協力を促進する。

本大会議長をつとめた韓国 OSS 推進フォーラムの高議長は、大会の最後に議長声明として、「全ての参加者が世界に広がる OSS コミュニティと価値を共有し、日中韓の政府・企業・教育機関や個人を含む各グループの偉大なる努力に大いに感謝します。フォーラムは、日中韓と他のアジア地域におけるIT産業の成長をめざし、OSS 市場を拡大してきました。ここに、OSS コミュニティのメンバーとして、オープンな世界を拡大し、豊かにすることを宣言します。」と表明し、本大会を締めくくりました。

本大会後の 11 月 17 日(木)に、OSS 特別講演会(トレーニング・キャンプ)を開催しました。第 15 回北東アジア OSS 推進フォーラムへの日本、中国、韓国からの参加者のほか、済州大学の学生が講演会に参加し、世界最先端の技術を学ぶと共に国際的交流が深まりました。

■本件に関するお問い合わせ先  
日本 OSS 推進フォーラム  
E-mail:info@ossforum.jp